

ホーム名： グループホーム 片町苑2F						
自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念をつくり、管理者が率先し具現化に努めている。また、理念は各フロアに掲示し、研修係を通じて全職員で共有し、来訪者にも認知していただいている。	理念を日々の支援の考え方の基として職員で共有し、朝礼での申し送り事例の中でも浸透させて新たな気づきに結びつけている。	地域社会との繋がりを大切にしながら家庭的な安心できる雰囲気の中で出来る事を楽しみながら継続してもらえよう温かい支援を継続してもらいたい。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的な挨拶は勿論、自治会の催し(地車、盆踊り、地藏盆、)や、ご葬儀、総会、慰安旅行等に参加させて頂き1年を通してお付き合いを頂いている。また、運営推進会議にもご参加して頂いている。	地元の自治会に加入しており、行事の時には参加するだけでなく準備から職員が関わるなどしてとても良い関係にある。地域の人から高齢の家族の相談を受けることもある。	地域の親しみやすい人間関係の中に溶け込むように努力してこられ、大事にされている関係は非常に大きな宝である。今後も相互に助け合い支え合っていける事を希望する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方より高齢者についての相談や施設利用のアドバイスを始め、自治会役員が地域防災に対し熱心であり、大規模災害などにおいて医療法人の立場から様々な方面で地域と連携が取れることを想定している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の開催が定例化され、自治会長及び副会長、地域包括職員、ご利用者やご家族、管理者などが参加し、日々の苑での生活や行事、利用者の動静、地域の行事など報告を行っている。この事がご利用者と地域とのつながりとなり、暮らし続けられる環境や体制が整いつつあり、サービス向上に繋がっている。	2ヶ月に一度地域の代表、家族、包括からの出席でフランクで活発な会議が開かれている。	会議で出された意見、要望が地域との連携、市町村との連携、職員同士の共有と連携に繋がりがり入居者の日々の安心に反映されることを期待している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	不明な部分などは市や区などに電話や訪問し、連絡を密にとり、最新情報や必要に応じ助言・指導を賜ることで、ご利用者様へのよりきめ細やかな支援に努めている。	運営推進会議への市からの出席はないが徐々に市の担当職員との関係も密になってきており今後更に要望やアドバイスを受けることができそうである。	市との接触回数が増え、距離感が縮まってきた事を管理者は感じており、アドバイス等を受けやすい体制になってきている。地域との安定した関係を基に市との協力関係もさらに密になっていくことを期待している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	開所当初より玄関入口に至るまで身体拘束を行わない状況は保たれており、事業所独自の方針、マニュアルを整備し、全ての職員への意識啓発を行っている。今後も、内外研修受講の機会を積極的に設けていくことで、職員への啓蒙活動を継続的に実施し、意識レベルの底上げを図っていきます。	「身体拘束廃止規定」を整備しやむを得ない場合のみ家族の了解を得ている。入居者の安全を見守りながら、出来るだけ圧迫感のない環境で過ごしてもらえるよう工夫を凝らし、支援している。	チームケアが一番大切と考え、フォローしながら相談しながら笑顔でという気持ちで介助に携わっていることから「拘束のない介助」についても職員は十分理解していると考えられる。今後も期待している。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修係等を通じ職員に認識を深めることができるようにしている。また、EV内や入口に行政機関からの配布物などを掲示し啓蒙活動を行っている。			

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員に研修担当者を定め、様々な方面から職員教育に取り組むほか、施設長、ケアマネージャが社会福祉協議会主催の実践者研修などを受講したり、一部ではあるが職員は外部研修で学ぶ機会を持っており、状況に応じそれらをご利用者様の支援に活かすことができる。また、職員同士のディスカッションも日常的に行われている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書、利用約款を用い口頭で詳細な説明を行い、理解・納得を得ている。また、解約の際も利用者や家族等の心身の状況、希望等を勘案し、必要な援助を行っている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>記入時直接見えにくい場所である各階EVホールに意見箱を設けることで、直接職員に口頭では言いづらいことを文書でお知らせいただける体制を整えている。また、ご本人やご家族との日常的なコミュニケーションの中で、ご意見・ご要望を収集し、運営に反映させるよう努めている。</p>	<p>エレベーターホール前に意見箱を設置しているがこの一年苦情が入ることはなかった。できる限り職員の方から「どうですか？」の言葉がけをしている。また、毎月送付する「グループホーム片町苑だより」で体調又は病院受診の様子、生活の様子を一人ひとり詳しく説明している。</p>	<p>どこの事業所でも家族から意見、苦情は伝えにくいと言えるので管理者、職員の醸し出す話しやすい雰囲気大切に、その点日常的に気を配っている。ただ、入居者にとり職員は第二の家族と思われるので、その交替については入居者と家族には逐一お知らせする事を希望する。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>毎朝の朝礼時に日常の「気づき」を伝える時間を設け各職員から小さなことでも、気付いた部分などがあれば気軽に意見を発表出来るようにし反映させている。また、日常的なコミュニケーションは勿論のこと、全体会議、フロア会議、個人面談等の機会を設けている。</p>	<p>ホーム長、事務長が中心となり職員の意見を吸い上げられる仕組みを造り、意見や要望を伝えやすい雰囲気になっている。</p>	<p>職員間の意見の違いなどについては管理者の総合的な判断力とリーダーシップに今後ますます期待するところであるが、特に職員が長く勤めることができる体制作りにおける実行力に期待している。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は、日常的に全職員が向上心を持って働けているかの現状把握に努めている。また、必要に応じ個人面談などの機会を設け、職場環境や条件の整備を検討している。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>全ての職員を対象に内部研修を行い、3期間の行程でのカリキュラムとなっている。ただ、外部研修においては、受講頻度が高い職員が限定されている為、研修係を中心に知識や技量の底上げが図れるよう努めている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>地域包括主催で同業者とのネットワークを構築が図られていおり、職員を派遣し更なるサービス向上を予定している。また、全国認知症グループホーム協会のホームページなどから情報収集し、サービスの質の向上に繋げている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>お問合せ、見学時から、受容・傾聴・共感の姿勢を保ち、ご利用者様が抱えていらっしゃる不安材料をひとつでも多くお話し頂くことで、打開策などを模索し解決策をご提案している。ご本人の安心感に繋がる関係が初期の段階で築けるように努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>上記同様に、お問合せやご見学時から、受容・傾聴の姿勢を保ち、ご家族様が抱えていらっしゃる不安や罪悪感をひとつでも多く拝聴し、打開策などを模索し対応のご提案を行っている。ご本人の安心を確保するためにも、ご家族に安心していただける関係が初期の段階で築けるように努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>状況に応じて、法人全体で対応できるような体制を整え検討している。また、適切なサービスの紹介や申込の支援などもしている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>一部のご利用者様ではあるが、毎食後の洗い物などをして頂いたり、生活の中で様々な事柄を共有し、教わり、学び、支えあう関係を築いている。それらを、日常生活や行事などを通じてご利用者様や職員で共有している。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族等来苑時は勿論のこと、電話や定期的に郵送しているお手紙などで、ご利用者様の状態を伝える等、積極的に情報交換することで、共にご本人を支えていくという関係を築いている。また、行事などへの参加を頂き家族として介護に参加して頂いたり、外出や外泊をしていただけるように努めている。</p>		
20	<p>8</p> <p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入所後も多くの面会の方が来て頂いている状況であり、施設入所が理由で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、面会や外出のご希望には極力お応えできるよう支援している。</p>	<p>馴染みのある理美容院、ダイエー、近所の公園での近隣の保育園の園児との触れ合い等は入居者が楽しんでいる。また、事業所の内部での馴染みの関係も大切に支援している。</p>	<p>今後も温かい支援を続けられる事を希望する。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>リビング等でTVを見ている時や食後の団欒の時に職員が会話を広げたり、間に入る等して、日常的に利用者同士の関係を把握し、利用者同士の関係が心地よくなるよう支援している。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院先などへ定期的に訪問、面会に行くなどの支援を行っているほか、退院後希望される方には再度当苑へ帰ってきていただけるよう対応などの支援を行っている。また、サービス終了時にはいつでも立ち寄って頂けるよう、ご本人やご家族に声をかけている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろから、ご本人の表情や行動を観察し、想いを汲み取るよう努めている。本人の想いに沿った対応ができるようご家族から情報を得たり、担当職員などで頻回にカンファレンスなどを開催し支援している。	職員は限られた時間の中で何とか入居者の気持ちを汲み取れるよう努め、管理者にフィードバックし皆で共有している。また日々の気づきや引き継ぎに申し送り書を有効に使い入居者に寄り添った支援に努めている。	入居者の安らぎと笑顔を思う職員の気持ちが日々のいろいろな気づきに繋がるようこれからも支援されることを希望する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	特に入所当初からご本人やご家族からのお話を傾聴し、生活歴の把握に努めている。入所後は、個人のケースファイルにご意向を含めた情報やケアプランを通じた経過観察などを記録し、全ての職員が共通の情報を把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人のケースファイル記録や職員間のコミュニケーションによる情報交換を通じ、一人ひとりの暮らしの現状を総合的に把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、計画作成担当者、職員、主治医、担当看護師などが、それぞれ意見を出し合い、その要望・意見やアイデアを反映したケアマネジャーが総合的に介護計画を作成している。	業務日誌、申し送り書、朝礼時における職員の気づきをケアカンファレンスに結びつけている。入居者や家族、医師、職員が意見を出し合い介護計画を随時見直している。	今後も入居者の安心と機能の保存のためにきめ細かな介護計画の見直しを期待している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践などに関しては詳細に日誌やカルテ、ケアカンファレンス等で情報共有しており、職員によって提供するサービスのバラツキのない様に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「医療連携」や「個別ケアサービス」などご本人やご家族の状況に応じて柔軟なサービスを提供できるよう支援し法人内の持てる能力で対応できる事柄については積極的な姿勢で取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園と隣接する公園などへの散歩時、園児との交流や、地域自治会役員の皆さんと日ごろから連絡を頂き、地域の地車、盆踊り、地藏盆や婦人会が開所されている「ふれあい喫茶」などへお誘いを頂いたりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関が同法人の救急指定病院ということもあり、入所時にかかりつけ医を同法人の病院に変更を希望されるケースが大半を占めている。かかりつけ医と事業所の間には盤石な連携体制があり、24時間いつでも適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時の説明で全員がかかりつけ医を法人が運営する明生病院に希望され、受診は職員が同行している。希望者は歯科医による往診も利用できる。ホーム事務長は明生病院医師とも関係が築けており、入居者とかかりつけ医とのパイプ役となっている。	本ホームは透析患者も受け入れており、系列施設の管理栄養士による食事指導や様子見等支援も充実している。かかりつけ医以外の受診に於いては、家族との連携を密に取り、情報漏れが無い様に努められたい。

31	<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。</p>	<p>毎週協力医療機関より看護師が訪問し、日々の健康状態を記録や職員の報告から判断し、適宜処置や受診につなげている。また、担当看護師が外来患者担当の為、苑で得た各利用者の情報を協力医療機関の受診時にいかされている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院先がほぼ同法人内の病院の為、常勤医や各階詰所の師長などが、苑職員と日頃から会議や日常業務の中で連携を取り、情報交換を行っている。また、日頃から頻回にお見舞いや毎回詰所を訪問等の機会を設け、ご本人やご家族の不安解消を支援することに努めている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>契約時に「延命に対する意思決定書」を用い、苑や法人の対応を詳細に説明し、入所後の対応についてご本人やご家族の明確な意思が確認できるようにしている。また、「延命に対する意思決定書」の見直しや変更など、個別面談時などの機会を通じ、都度相談に応じる体制は整えている。</p>	<p>契約時若しくは早い段階で、重度化した場合や終末期のあり方について本人や家族と話し合いを持ち、「延命に対する意見決定書」に記入して貰っている。「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、その中に看取りの基本的な考え方・看取りの場所等を記載している。</p>	<p>早い段階で本人や家族の意向を聞いておく事は望ましい事である。本人や家族の意思を尊重した「意思決定書」となる様に、説明や話し合いを十分重ねながら方針を出す様に導きかけられたい。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>協力医療機関が救急病院の為、常時救急対応が可能とベッドの確保がされている。また、苑内で緊急事態の連絡や対処方法などを取り決めている。また、内外研修を通じ学ぶ機会を設けている。AEDを配置し対応している。</p>		
35	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防機関に参加していただき避難訓練(内1回は夜間の避難)を実施しており、消防機関からの助言に基づき周知徹底している。また、自治会を通じ取得した地域の災害対策情報や非常口・避難経路・避難方法等を職員に定期的に周知することで、不測の事態に備えている。</p>	<p>直近では平成25年12月に避難訓練を行っている。消防署が近い事から、出火の際には防火区画から出て纏まって避難しているようにと指示を受けている。水害時には3階に避難する事を決めている。防災に関する自治会との取り組みは活発であり、自治会はとても協力的である。</p>	<p>ホーム事務長は勤務中阪神大震災を経験しておられ、災害対策には大変気を配っておられる。災害発生時に職員が落ち着いて行動が取れるよう、日頃から意識を留めておかれたい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全ての職員が、日々カンファレンス等を通じて人格の尊重やプライバシーの確保に関して理解を深める機会を持ち、実践している。認知症の比較的軽度の御利用者様には毎月居室担当職員が個別外出などを行いパーソナルな時間を設けている。	毎朝の朝礼時に、意識を高めるべく話題にしている。特に、言葉遣いや排泄支援時に気を付けて対応するよう指導している。	言葉遣いや対応で不愉快な思いをさせていないか、言動を振り返ってみたり日常例を話し合ったりしながら、今後も引き続き入居者を尊重した支援をお願いする。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	受容・傾聴・共感の姿勢を心掛け、ご本人の意向を伝え易い雰囲気作りに努めている。また自己決定できるような積極的な働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	適宜カンファレンス等で日々の生活の状態を把握し、ご本人の希望やその日の体調を考慮し、散歩やレクリエーション、家事手伝いなど、一人ひとりが楽しく穏やかに過ごすことができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じ衣替えを行い、本人が選んだ衣服を着ていただいている。また、希望者には希望の理美容店に通えるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々のメニューは栄養士管理のもと、様々な工夫や季節感のあるものとなっている。また、おやつ等は気軽に季節感を出せるものとして工夫されている。また、毎月行事の時に、特別料理を準備しフルコース形式やバイキング形式、焼き立て、出来立てなどを提供している。	朝・夕食は8割方出来た物を業者から、昼食は系列施設から届く物を提供し、米飯のみホームで炊いている。ドライブ等で行楽地に出かけた時には、出先の飲食店で各自好きな物を注文して味わい楽しんでいる。	透析患者にも管理栄養士による食事指導で、一緒に物を食する事が出来ている。行事の中で行われた“手打ちうどん”や“うなぎの炭火焼き”等は、思い出作りや話題作りとなって、入居者を楽しませている事と思う。今後も取り組みに期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は利用者様ごとに記録し、状況を把握しながら、栄養補助剤やアルカリイオン飲料水などで不足分を補うなどの支援を行っています。また栄養バランスに関しては、法人の管理栄養士の助言を得ながら調整しています。透析患者様には個別対応も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な方は訪問歯科診療や受診を行い、毎食後、口腔ケアを実施し、ご自身でケアできない場合や、磨き残しの支援など一人ひとりの状態に合わせて行っている。また、定期的な歯科医師の往診があり、個別でアドバイスを受け実践している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、適宜職員から声かけや誘導を行い、出来るだけトイレでの排泄が出来るように支援し、本人が不快とならないよう支援をしている。また、便秘薬などの利用も訪問Nsの指示のもと調節も行っている。	「排泄チェック表」に排泄時間帯・量・状態・質を記入する事で、健康状態の把握にもつながっている。おむつを使わない支援に努力している。	排泄サイクルの把握で適切な時間での声かけや誘導が気持ち良い排泄に結びつくよう、今後も支援に力を注がりたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々積極的な水分補給に努め、排便状況や下剤服用の把握、献立の工夫、散歩や体操で身体を動かすなどで働きかけを行ったり、腹部マッサージを適宜行うなどの支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の意思確認を行い、ご利用者様と職員が1対1でゆっくりコミュニケーションをとりながら楽しく入浴していただけるよう支援している。また、年に数回行事入浴(菖蒲湯・バラ湯)なども行っている。	午前中から午後時間の間で、1日3～4人が入浴している。1人週2回程度の入浴で、同性介助を基本としている。その都度湯換え・浴槽洗浄をしており、皮膚保護の為に入浴剤を用いている。重度の入居者は1階デイサービスの機械浴を利用している。	1対1で向き合える貴重な時間である。会話を楽しみながら、共に過ごせる有効な時間とされたい。

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員が、個々の生活習慣を把握し、声かけを行うことで、利用者一人ひとりの生活リズムを整え、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。また、適宜Drより促眠剤なども利用している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者が服用している薬情報ファイルを作成し、職員全員で情報共有しており、症状などを個別に記録している。なお、服薬管理は各フロアに担当者を決め「準備」「服薬」のダブルチェックにて管理している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の体操やカラオケ、レクリエーションを始め、利用者の残存能力を活かし、後片付け、洗濯物整理などの役割を持っていただき、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏の暑い日や、冬の寒い日はドライブを行い、その他気候の良い時は買い物・散歩などを通じ、生活リハビリ・日光浴・外気浴等を随時行うなど頻回に行っている。また、誕生会や季節行事など希望に沿って外出できるように支援している。	車椅子利用者を含め、日常的な外出支援を心掛けて実行している。行事担当の職員による計画でドライブ外出も頻繁に行われ、苑の外に出る取り組みに積極的である。	独歩出来る方が車椅子のハンドルを押しながら散歩する光景は微笑ましいものがある。ドライブによる外出で美味しい物を食べたり、着飾って他人の目を意識する事も、いい緊張感を味わう機会となっている事と思われる。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	可能な限り本人にお金を持っていただけるよう支援することで精神的な安定を図り、利用者の力やご希望に応じた支援を行っている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者によっては携帯を所持されており、ご家族などに電話されている。また、携帯を所持されていない利用者に対しては、ご家族に確認の上、ホームの電話でお話していただいている。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事や「くつろぎ」の時間などリビングにてご利用者が若いころの唱歌などのCDや時代劇や歌謡ショーなどのDVDを中心に流し、ご利用者様同士のコミュニケーションのきっかけとしている。また、毎月の行事に合わせて担当者が掲示物をご利用者様と作成し掲示している。	広いリビングの隅にソファが置かれ、1人になれる空間も用意されている。壁にはドライブ外出や行事での写真、手作りカレンダーが貼られている。玄関・リビング内には季節感あふれる掲示物や置物・生花が飾られ、大人の生活する上品な空間が演出されている。	専門のクリーンスタッフ2名が月曜日～金曜日迄清掃に携わり、手すりや取っ手の消毒もなされ衛生にも気を配られている。快適な居住空間を今後も提供して頂きたい。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは、ダイニングテーブルと椅子、ソファを配置し、入居者同士で談笑したり、TV観賞するなど、入居者のくつろぎの場となっている。また、ベランダやEV前にソファを配置し、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族などに依頼し、以前から使い慣れたなじみのものや本人のお気に入りのものを出来るだけ持ち込んでいただいている。また、安全に配慮するなど本人が居心地良く安全に過ごせるよう工夫している。また、ご本人の写る写真などは積極的に居室に掲示し、良い思い出の補完に努めている。	各居室クローゼットが完備され、室内は入居者の思い思いの部屋作りとなっている。各室、温・湿度計の設置で、適切な温・湿度管理がなされている。シーツは週1回の洗濯で、布団も干すなど衛生にも心掛けている。	クローゼットが備え付けられている事で、部屋がすっきりと片付いている印象である。認知後退防止の上から、また生活感を感じる部屋作りとしても、カレンダーと時計の設置を望みたい。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ハード面においてもバリアフリーに配慮しており、車いす、歩行器等の通行に支障のない幅員を確保し、滑りにくい塩化ビニールにて転倒の未然防止にも配慮している。なお、厨房は入居者とスタッフが協働できるスペースとレイアウトになっている。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない